資料3

国家戦略特別区域　区域会議資料

つくばスーパーサイエンスシティ構想の取組状況とフェーズアップ

令和7年5月29日
つくば市

つくばスーパーサイエンスシティ構想の取組状況とフェーズアップ

これまでの取組・成果

つくばスーパーサイエンスシティ構想 ～科学で新たな選択肢を、人々に多様な幸せを～

社会全体が一人ひとりを包み込み、支え合う「誰一人取り残さない」SDGsの精神の下で、つくばに集積する科学技術を結集し、デジタル、ロボティクス等の最先端技術の社会実装と都市機能の最適化を進めてきた。

令和元年につくばスマートシティ協議会を設立し、**企業・大学・研究機関・住民との連携**により、住民が抱える課題の解決に資する又は未来志向のサービスを精力的に組成し実証に挑戦（令和６年に一般社団法人化、**会員57機関（筑波大、産総研等多数の研究・教育機関、企業等が加入**）

主な規制改革・サービス

▶ 地域住民と対話しながら、特区指定以降、**社会実装に至る事例が出始める**等、着実に成果を挙げている

インターネット投票

ネット投票
市長２期目行政運営
全国ネット
６社取材

【規制改革提案】
移動期日前投票所の柔軟な告示（R5.9全国措置化）

スマートモビリティ実装

AIオンデマンド
タクシー
R7.4実装

【規制改革提案】
・パーソナルモビリティの最高速度引上げ（R3年度提案）
・パーソナルモビリティポート整備場所に係る解釈拡大（R6年度提案）等

小児オンラインかかりつけ医

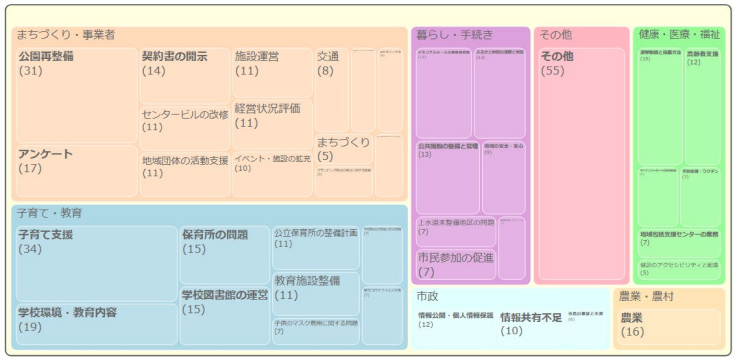
休日・夜間
小児デジタル
急患センター
R6年度実装

【規制改革提案】
時間外対応加算２における施設基準の新設（R6.4全国措置化）

データ連携基盤に関する取組

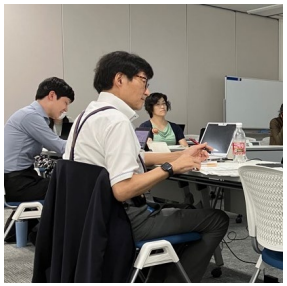
▶ 寄せられた市民の声や都市データをデータ連携基盤に集積し、生成AIを活用してニーズや課題を可視化することで精度の高い政策の実現を目指す。

生成AIを活用した「市民の声の見える化」との連携



定性的データの
要約・可視化
R6年度構築

プライバシー影響評価(PIA)

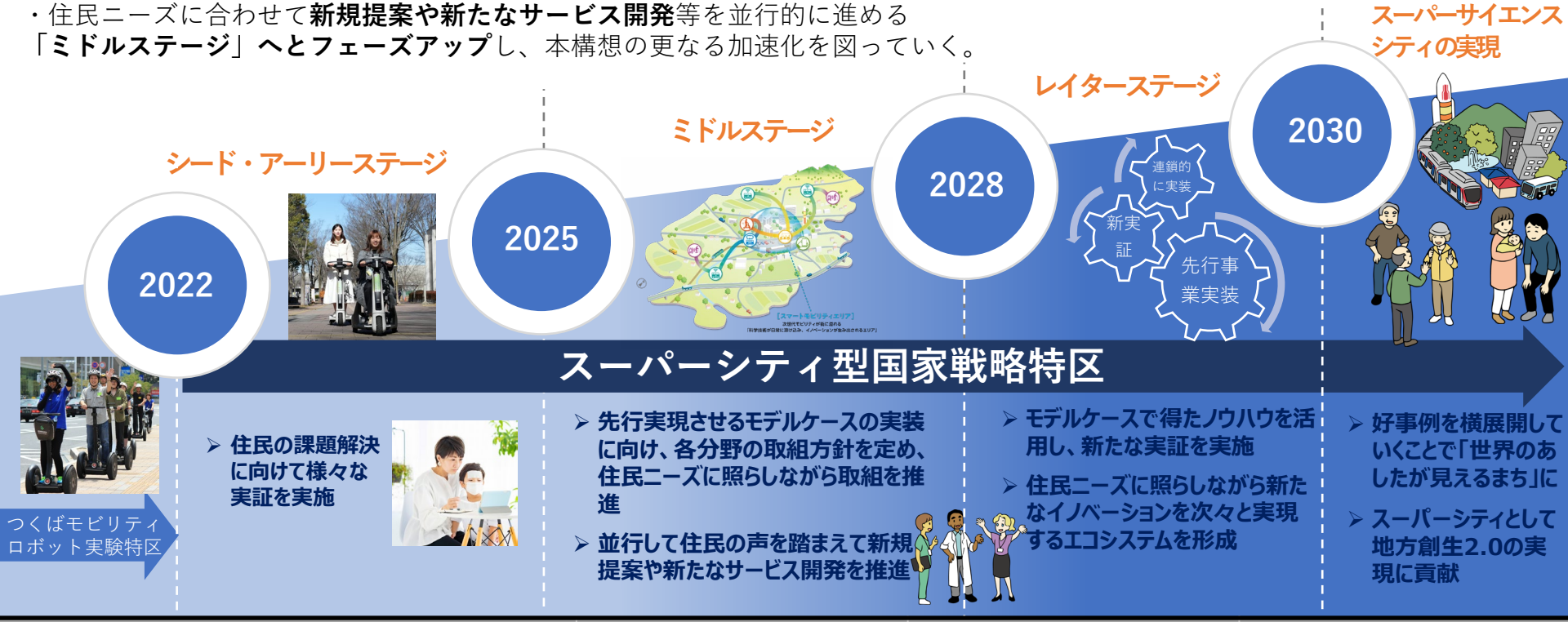


全国先駆け
市民参加型制度設計
R6年度とりまとめ

▶ 先端的サービスとともにプライバシーへの配慮の制度化に着手

「ミドルステージ」へのフェーズアップ ～住民と住民、住民と行政のつながりを深化～

インターネット投票や生成AI等のデジタル技術により**誰もが政策に声を届けることのできる仕組み**を構築し、
より多くの**住民のニーズを確認**しながら、
・これまで組成してきたサービスについて、各分野における取組方針を明確化し、**実証から実装へ重点化**するとともに
・住民ニーズに合わせて**新規提案や新たなサービス開発**等を並行的に進める
「**ミドルステージ**」**へとフェーズアップ**し、本構想の更なる加速化を図っていく。



ミドルステージ先行実現重点事業スケジュール		2025年度	2026年度	2027年度
行政サービス	インターネット投票	住民意向確認等での活用　（※オンデマンド期日前投票所を実施しつつ、特例が認められ次第、速やかに公職選挙で実施）		
	行政窓口のデジタル化	DXSaaS導入準備 → システム設計・開発	DXSaaSシステム運用開始（証明書）　サービス内容拡大（届出手続）	
モビリティ	つくばスマートモビリティ：スマートモビリティプラットフォーム	仕様検討	構築	事業開始
	つくばスマートモビリティ：ハンズフリーチケッティング	システム構築・検討	サービス実証	事業開始
	つくばスマートモビリティ：パーソナルモビリティ	公道実証等　（※特例が認められ次第、速やかにサービスとして実装）		
	つくばスマートモビリティ：自動運転バス	体制構築・車両導入 → 実験走行	レベル４許認可申請	レベル４定常運行
医療福祉介護	オンライン在宅療養支援	サービス設計検討	サービス実証	事業開始
	「もしもの時」を支える情報連携			